

【今週の注目疾患】

《E型肝炎》

2024年第7週に県内医療機関からE型肝炎の届出が1例あり、2024年の累計届出数は7例となった。7例のうち、性別では男性が6例（86%）、女性が1例（14%）であった。年代別では、70代が3例（43%）、50代が2例（29%）、40代及び60代が各1例（各14%）であった。症状の有無別では、患者（有症状者）が6例（86%）、無症状病原体保有者が1例（14%）であった。7例のうち、推定される感染原因・感染経路として具体的な記載があったのは1例で、生焼けの可能性のある肉類の喫食があったとされていた。

2015年から2024年第7週までの期間において、県内医療機関から合計273例のE型肝炎の届出があった。近年、県内におけるE型肝炎の届出数は増加傾向がみられ、2022年には2003年の現行感染症サーベイランス開始以降最多となる44例の届出があり、昨年2023年は2022年に次いで2番目に多い38例の届出があった（図1）。本年は第7週時点において、2022年に次いで2番目に多い届出数（第7週時点で7例）となっている。なお、2020年以降、無症状病原体保有者の届出が増加している。性別は、男性215例（79%）、女性58例（21%）で男性が多かった。男女ともに幅広い年齢の届出があり、特に40代～70代の男性が多かった（図2）。

図1：2015年～2024年第7週に県内医療機関から届出のあったE型肝炎 症状の有無別届出数

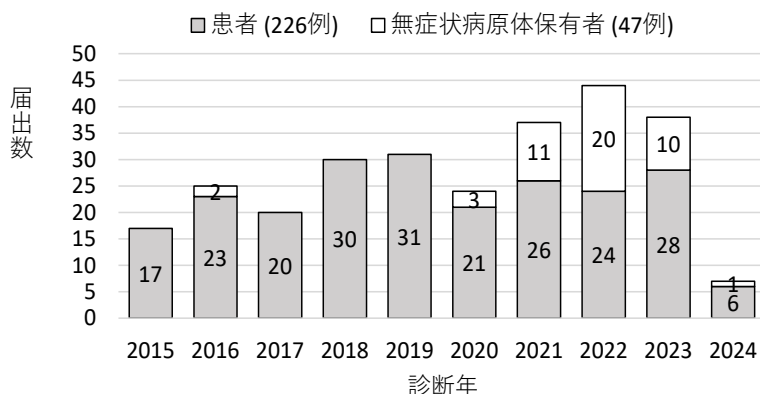
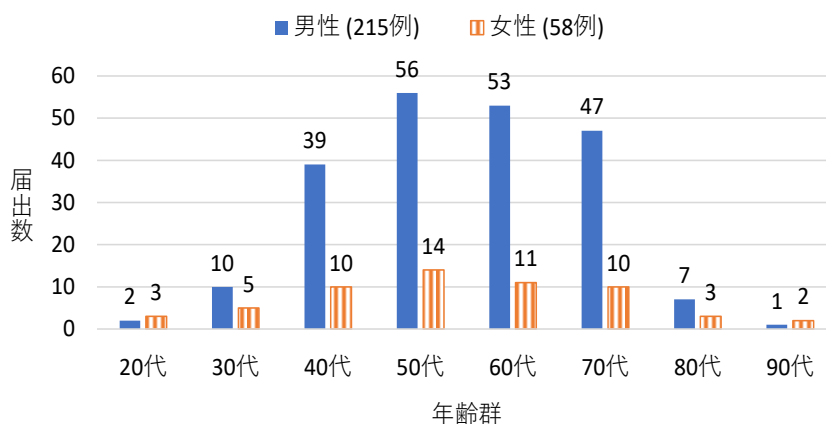


図2：2015年～2024年第7週に県内医療機関から届出のあったE型肝炎 性別・年齢群別届出数



E型肝炎は、ヘペウイルス科 (*Hepeviridae*) の E型肝炎ウイルス (hepatitis E virus: HEV) の感染によって引き起こされる急性肝炎である。潜伏期間は15～60日と長い。発熱、全身倦怠感、悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛等の症状を伴い、黄疸が認められるが、不顕性感染も多い。従来は慢性化しないと考えられていたが、臓器移植患者など免疫抑制状態にある患者の HEV 感染が慢性的な感染を引き起こすことがある<sup>1)</sup>。また、妊婦が HEV に感染して発症した場合には、劇症化する率が高いと言われている<sup>2)</sup>。

HEV の感染経路は経口感染であり、ウイルスに汚染された食物、水等の摂取により感染することが多いとされている。本邦では汚染された食品や動物の臓器や肉の生食による経口感染が指摘されており<sup>2)</sup>、加熱不十分なブタやイノシシの内臓肉等の喫食が主な感染要因として考えられている<sup>1)</sup>。

感染予防としては、現時点において国内で認可されているワクチンはないため、手洗いの励行や飲食物の十分な加熱が重要となる。HEV は室温では28日間生存可能であるが、80℃で2分間以上の加熱をすることで失活させることが可能である。そのため、ブタやイノシシなどの生レバーやジビエなどの野生動物の火の通っていない肉等の生食を避ける必要がある<sup>3)</sup>。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：IASR Vol.42 p271-272:2021年12月号  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hepatitis-e-m/hepatitis-e-iasrtpc/10837-502t.html>
- 2)厚生労働省：E型肝炎ウイルスの感染事例・E型肝炎 Q&A  
<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/08/h0819-2a.html>
- 3)一般社団法人日本感染症学会：E型肝炎 (Hepatitis E)  
<https://www.kansensho.or.jp/ref/d03.html>

【新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生状況】

図：直近5週間の県内 COVID-19 定点当たり報告数の推移(保健所別)

2024年第7週の県全体の定点当たり報告数は、前週の16.43\*人から減少し、12.47人であった。

地域別では、君津(23.92)、印旛(17.67)、柏市(15.00)保健所管内で患者報告数が多かった(図)。

\*前週報告時点では16.51人

